

平成30年度 第2回 小野申人といきいきトーク

と き	平成31年1月16日(木) 19時~20時40分
と ころ	府中市立上下中学校
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	上下中学校運営協議会委員13名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、石川教育部長、門田学校教育課長

《教育》

- ・ 子どもも少なければ保護者も少ない。資源回収などは地域で手伝っている。
- ・ 地域に学校があることで、子どもがいて、保護者がいて、地域の人が集まり、活性化していく。これをみんなで情報共有して、それぞれ思うところを伝えていくというのが学校運営協議会。親、地域、先生が気兼ねなくいろんな話ができる体制ができる。
- ・ 上下のまつりや文化祭に保育所、小学校低学年を参加させる。小学校3年生が上下町盛り上げ隊として自分たちの発想で活動、中学生も参加している。
- ・ 今年は、専門科目の家庭科の先生が確保できず、先生や地域も探したが、該当者が見つからず、ボランティアで来ていただいている。これは県や市がすべきことでCSや学校がする仕事ではない。しかもボランティアのため、遠方からきても交通費も何も出ない。

専門教科の先生については、県議会でも同じような質問が出ていた。広島県全体の問題でもある。県とも連携を計りながら対応する。
交通費については考える。

市

- ・ 日本語が分からない外国人の子どもがいる。今後、法律が変わり、そういった子どもが増えてくる。今は、運営協議会のほうからお願いした人に日本語指導をボランティアでもらっているが、教育のセーフティネットが必要
- ・ 地域の方には地域人材として講師などをしていただき、ずいぶん助けていただいている。
- ・ CSをやっている中で、学校がやればいいではなく、地域が請け負うという意識がとても高い。普通の小・中学校と違い、運営協議会があることで校長はかなり助かっている。
- ・ 義務教育ではないが、上下高校の教室が余っているので、そこに小、中学校も入れて、小、中、高一貫という考えはできないか。教育がよければ、転入も見込める。

小中高の一貫教育については、他市に中高一貫があり、小学校も入れて、小中高一貫というのも一つの案。一貫でも、校舎は別だが連携をしながらやりましようという市もある。その点では上下もできると思う。

市

- ・ 上下町は保育所と中学校は一緒だが、小学校は別れている。小学校の運動会の日をずらすなどすれば、それぞれお互いの学校の運動会を見に行くことができ、何をしているか知ることができる。
- ・ 高校の体育祭も中学生は参加しているが、小学生の時から見に行くなど、地元の高校に行きたいと思わせるアピールが必要。

保幼小中学校の連携の中で、小学生が高校の体育祭や文化祭を見に行くことも一つのきっかけになるかもしれない。参考にさせていただきたい。

市

《地域づくり》

- ・ 地域づくりは子どもがいなければできない。子どもがいる町内会といない町内会で感覚が違う。子どもを増やす政策をしてほしい。
- ・ 子育て世代が減っている。消防団のなり手がいない。お祭りで太鼓をたたく子がほぼいない。上下は10年先どうなるのかと思う。子どもの数が維持できるような施策が身にしてみても必要と感じている。
- ・ 民生委員のなり手不足を心配している。意向調査など早めに動いて、情報をつかんで、町内会に情報を流して、なり手を検討することが必要。
- ・ 民生委員の退任率が每期50パーセント。毎年、委員がガラッと変わるとやることのレベルも下がり、地域からの信頼も下がる。3期、4期続けられる方が必要。
- ・ 民生委員の後任を選ぶのは民生委員がするという雰囲気がある町内会がある。民生委員自体の理解をして、町内会として、後任を選んでいただくような努力をしてほしい。

町内会の役員も民生委員も同じ地域の個人情報扱う。民生委員も町内会の役の一つ。今、支援員制度といって民生委員のサポート制度も立ち上げている。一人でやらなければならないという考え方を変えなければ。

部長

個人情報あるが、民生委員が町内会の人と連携できるようなやり方を考えなければ。

市

- ・ 地域の町内会のメンバーには子育て世代の人があまりいないため、自分の町内会のこと分からない。分かれば、自分たちの世代に何ができるだろうかにつながっていく。

《防災》

- ・ 昨年の水害で府中市も問題点が出てきていると思う。熊本の震災跡を消防で視察に行き、行政も災害に遭っているなかで、個々の地域で共助・さらに個人で自助、自分のこと自分ですするという意識付けを市民に持たせていないと知った。
- ・ 市民に今回あったような災害が今後もあるという意識改革をしていかないといけない。
- ・ 市の職員も熊本や東北などの被災市町に行き、資料や仮設住宅の運営であるとか、課

題を集約して被災時の運営の仕方やNPOの立ち上げなどの意見を吸収してもらう必要がある。

- ・ 上下も寸前のところで川が氾濫するところだった。府中の中心部とも孤立した状態になった。支所で運営にあたったが、食料も1食分しかなかった。孤立したときのマニュアルなど考えていたほうがいい。
- ・ 上下では、古い橋の多くは30年代に架けている。そういう橋を検証するという防災の仕方もある。
- ・ 集会所が避難場所になっているところが多いが、山崩れのない場所などを確保する必要がある。公共の施設だけではなく、よく検討してほしい。
- ・ 支所の人数が少ない。上下から府中に行っている職員を、緊急の場合は、支所で勤務させる仕組みを作るべきではないか。
- ・ 上下の避難の拠点が少なすぎる。道中で被災する可能性もある。
- ・ 町内会での訓練が必要。
- ・ 行政、消防署もあるが、やはり消防団が確実に誰がどこに住んでいるというコミュニティを把握しているが、人材不足。消防団に若い人に入ってもらい、活動してもらうための何かがあればいい。
- ・ ペットを連れた人が避難場所に入れないので、車で犬と過ごされていた。そういった人のための場所の確保がいる。

上下は町民会館が拠点ではあったが、各地域で自主避難をされたところもずいぶんあった。避難所のあり方、避難情報メールの出し方など言われたように他自治体にも聞きながら整理、検証をしている。そのあたりもまとめをさせていただく。

支所の人員については、府中に入れたい人は、支所で勤務した職員もいる。また、人数的なところから、避難所の開設運営を行政で全てすることはできない。その点では地域の人をお願いしなければならないところもある。その連携をどうするかという仕組みを考えなくてはならない。

市

《その他》

- ・ 大人が増えないと子どもは増えない。事業所も成り立たなくなる。移住促進を市の大きなテーマとしてがんばっていただきたい。人の数は市の力になる。

《最後に》

活発な意見を感謝。教育からCS、防災、町づくりについても、地域と行政であったり、地域と学校であったり、連携が一番大切だと改めて感じた。これからも一緒になって取り組んでいきたいと思う。

市